

建築における言語の必要性

環境・社会理工学院 23B50431 鴻巣大樹

1. はじめに

Research Question：建物の美しさは言葉により説明できるものか？

ある建物があってそれを美しいと感じたとしても、それのどのようなところがなにをもって美しいのかを説明することは難しい。そこで、世界の名だたる建物を通して「美しい」という言葉の定義について探り、建築と言語の関係についても探っていきたい。

前提として、「美しい」という述語については、太古の時代からたくさんの批評家達によって論じられてきた。

それらの多くによれば、「美しい」は、リズム、プロポーション、そして対称性という三つの古典的な形態的特性を持った構成にこそ相応しいとされる。(建築の形態言語 P31) — (※)

ここで、その定義が実際に適用できるのか調べる。使用するデータは以下のとおりである。

- ・ The DK Eyewitness Travel list of Top 20 Buildings in the British Isles to visit — 〈1〉
- ・ The World's Most Beautiful Buildings, According to Science — 〈2〉

2. 方法

まず、〈1〉をもとに世界的に評価されている建物のリストをつくる。次に、それらの建物が(※)で述べられる条件を満たしているか調べる。プロポーションについては〈2〉を参考にした。以上の結果をまとめ、建物の美しさとその基準に関するデータを表にした。

3. 結果

リズムについては同じような形が繰り返されているかを3段階で評価し、プロポーションについては〈2〉のデータをもとに黄金比との一致率を記した。対称性については、左右対称であるかを3段階で評価した。結果を求めた表は右上のようになった。(一部省略)

省略分の内訳 (総数20)

- リズム
→○：15、△：3、×：2
- プロポーション
→記録あり：7 (平均45.27%)、記録なし：13
- 対称性
→○：9、△：5、×：6

名称	国名	リズム	プロポーション	対称性
タージマハル	インド	○	67.45%	○
コロッセウム	イタリア	○	—	○
ウェストミンスター宮殿	イギリス	○	70.50%	×
サグラダ・ファミリア	スペイン	○	43.23%	△
アンコールワット	カンボジア	○	33.07%	○
アヤソフィア	トルコ	△	33.61%	△

4. 考察

○リズム

→美しさを表す指標として適切である。

○プロポーション

→〈1〉のリストの中には〈2〉のランキングに含まれてないものも多い。プロポーションは美しさを説明できることもあるが、すべての場合にそれがいえるわけではない。

○対称性

→ある程度の対称性は美しさを表すのに有効である。しかし、対称でなくても美しいと評価されるものもある。

5. おわりに

私は建築と言語の関係について、建築の美しさを言語を用いて説明できるかという問いを立て、古くから使われている「美しい」の定義の再現性を実際の建物を使って調べることによって研究した。

今回の結果によれば、建物の美しさを言葉で説明することは基本的に可能であるが、一部の建物、特に近年の建物には昔から使われている美しさの表現方法では美しさを正確には表現できないものがあつた。言語が移り変わるように、建物に関する人々の感性も移り変わっていくことがわかつた。

文献

- ウィリアム・ミッチェル, 建築の形態言語—デザイン・計算・認知について, 鹿島出版会, 1991
- The DK Eyewitness Travel list of Top 20 Buildings in the British Isles to visit
- The World's Most Beautiful Buildings, According to Science